発行日／令和2年12月15日　発行者／江別市生涯学習推進協議会　編　集／広報委員会　連絡先／江別市教育委員会生涯学習課　〒067-0074　高砂町24-6　電 話 011-381-1062　FAX 011-382-3434　HPアドレス http://shougai.ebetsu.org/生涯学習推進協議会／

令和2年度　生涯学習リレー講座「江別を知るタイムトラベル」

令和2年度　生涯学習リレー講座<えべつ市民カレッジ・道民カレッジ連携講座>
「江別を知るタイムトラベル」
入場無料
会場／江別市民会館 2階 21号室（江別市高砂町6番地）
講座1　令和2年11月6日（金）18:30〜20:00（先着30名／受講料無料）
「江別の歴史と石狩川の関わり」
講座2　令和2年11月13日（金）18:30〜20:00（先着30名／受講料無料）
「江別市の産業遺産について」
講座3　令和2年11月27日（金）18:30〜20:00（先着30名／受講料無料）
「馬のいた風景」
TEL 011-381-1062 ／ FAX 011-382-3434
E-mail shogaigakushu@city.ebetsu.lg.jp
<主 催>　江別市生涯学習推進協議会

講座1　「江別の歴史と石狩川の関わり」

講　師／一般社団法人　流域生態研究所　代表理事所長　妹尾　優二　氏

河川自然学師の妹尾優二氏は、リレー講座のテーマ「江別を知るタイムトラベル」にふさわしく、古い時代の原始河川や明治開拓期の江別や未来の河川を、時空を超えて巡る旅物語のように講演された。

江別が5千年から1万年前には古石狩湾の海底にあったこと、その後、汽水域になり、水の力で原始河川が生まれて湿原になったことを図解で説明され、知られざる水の力のすごさを想像させてくれた。

講師は、江別が明治の開拓期には舟運の拠点として栄え、北海道の中心都市になるはずだったと当時のロマンを語られた。さらに明治の治水事業では、岡崎文吉博士が蛇行する川の状態を生かす理論を提唱したが、その通りに実施されていれば石狩川の様相と地域の土地利用は変わったはずと指摘された。現状は河川事業で川の長さが短くなり、護岸が整備された河川は多様な環境を失い、生息していたイトウ、チョウザメやヤツメウナギなどの生態に大きな影響を与えたことを写真で詳細に紹介された。

最後に、未来の「良い川づくり」のためには、治水事業の時代から自然(水)の力を生かし多様な環境の川をつくる時代に移ることが肝要だと述べられ、参加者に未来の河川にも想いを巡らせる機会となった。

（文責：総務委員長　齊藤　徹）

江別を知るタイムトラベル「江別の歴史と石狩川の関わり」を拝聴して

中井　悦子

江別に住まいを移して20数年が過ぎ、江別をもっと知りたいとの思いと最近、石狩川の水害を調べる機会があったことから講座に申し込みをしました。

講師の妹尾先生は冒頭で「江別の歴史にはあまり詳しくなく、専門は河川工学と河川に生息する生き物、特に魚類生態学です」と、お話になりご講演が始まりました。

先生の資料は綺麗な写真が多彩で、イトウの産卵行動やヤツメウナギの生態など、また、湿原の植物、治水の歴史、年代別の石狩川流域の図面など多岐にわたり、石狩川水系には、今は減少したヤツメウナギや絶滅したチョウザメなど沢山の魚が生息し、釧路湿原に生息のタンチョウヅルやシマフクロウなども生息していた豊かな湿原が広がっていたと、はじめて知りました。

しかし、生活の場でもある川は開拓のため大掛かりな治水工事が行われ、作物を作るために泥炭地と闘った先人たちの苦労があったから、豊かな今の江別があるのだと改めて思いました。

今回の講座で、石狩川の原始の様子や自然の営み、また、開拓時に石狩川が人々に果たした役割など興味深い内容を知ることができました。

生涯学習リレー講座は、当初11月6日、13日、27日の3回開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、誠に残念ではございますが、13日と27日を中止することとしました。1回のみの開催となってしまいましたが、当日の講演の様子を映像に記録しましたので、こちらのＱＲコードからぜひご覧ください。

当日の映像はこちらの「QRコード」からご覧になれます。
⬇

第67回　江別市民文化祭を終えて（新型コロナ禍の事業報告）

広報委員　山田　浩
NPO法人江別市文化協会　副理事長

「2020コロナに負けない文化祭」がキャッチフレーズの今年度江別市民文化祭は、幾多の難題を抱えて開催し、10月17日の「短歌大会（文芸部門）」を幕開けに、11月15日の「こども文化祭（舞台部門）」で千秋楽を迎えました。

この間、10月27日〜11月1日に文芸部門の「川柳大会」「俳句大会」および生活文化部門の「将棋大会」、11月3日は同じく生活文化部門の「茶会」および舞台部門の「洋舞・演劇フェスティバル」兼【第67回江別市民文化祭開会式・文化賞等表彰式】が行われ、11月3日〜5日には、「一般展示」をはじめとする「市民菊花展」「市民華道展」「孔版画展」「市民書道展」「市民陶芸展」「市民盆栽展」の展示部門が一斉に開催されました。

2020年の文化協会は、役員改選も含めた「書面表決」（5月）から活動開始となり、当初より『今年の文化祭をどうするか？』という事でしたが、甲谷理事長の〝江別の文化活動は休まない〟熱い思いと、役員各位〝何とかやろう！〟との決意が固まりました。

最大の難題は、「新型コロナの感染対策」でしたが、協会団体との諸会議を重ね、江別市教育委員会による一般応募関係者への説明会等も経て開催に至りました。

「コロナへの対策」には、国や道からの「イベント開催における対策周知」（いわゆる、①マスクの着用、②手指の消毒と検温の実施、③ソーシャルディスタンス）および江別市のホームページ資料の活用を基本として、開催会場の状況に応じた諸対策を講じる事としました。

来観者には、①各会館玄関口での検温と手指の消毒（スタッフはフェースシールド着用）と、②観覧名簿の携帯（展示会場ではスタンプラリー式を応用、開会式等では単票による退出時の提出）をお願いしました。幸いにも37.5℃以上の方はいなかった様です。

開会式での市民会館の席は、前後左右1席分の間隔を空けて、終了後は速やかに退席していただき、会館管理者とスタッフによる消毒作業を実施しました。後刻のフェスティバル入場者とは入替とする対処でした。

因みに、舞台部門のフェスティバルと千秋楽の「こども文化祭」観覧席は、定員五割の指定席としました。

その他、主に密対策となりますが、特徴的な工夫として①受付等では机1台に1人とする②展示会場での搬入、搬出時は、極力人数制限や時間差とする③観覧通路を区分する④開会式で使うマイクは、1人ずつの交換とする、等々を行いました。

このたびの文化祭は、〝コロナの感染無しで成功〟と言える事ですが、潜伏期間が2週間程度とされている中、11月いっぱいは緊張の連日かと・・・。ご観覧に来ていただいた方々はじめ関係各位が無事にご健勝であります事を切に祈るばかりです。

共催いただいた江別市教育委員会はじめ会場の中央、野幌、大麻公民館と青年センターの各位および備品の貸し出しに協力いただいたセラミックアートセンターさんには心よりお礼と感謝を申し上げます。

一般展示のみなさん、ご観覧にご足労いただきました市民のみなさんありがとうございました。今後ともご理解とご支援をお願いいたします。

そして、当文化協会の会員各位が江別の文化活動を絶やすことなく継続出来た事に誇りを持っていただけると幸いです。

発行日／令和2年12月15日　発行者／江別市生涯学習推進協議会　編　集／広報委員会　連絡先／江別市教育委員会生涯学習課　〒067-0074　高砂町24-6　電 話 011-381-1062　FAX 011-382-3434　HPアドレス http://shougai.ebetsu.org/生涯学習推進協議会／

「WITHコロナで活動中」

第93号では、「WITHコロナで活動中」と題して、コロナ禍で実施している事業において工夫していること、講じている対策、または事業を実施する上で苦労していること、困っていることなど、会員の実情をお伝えし、皆さんと共有していきたいと思います。

コロナ禍の中のチャレンジ

NPO法人えべつ江北まちづくり会　倉野　明彦

江別市都市と農村の交流センター「えみくる」もコロナ禍の影響により長期に亘る休館を余儀なくされ、市民の皆さんが楽しみにしていた「ピザ祭り」、「土器作り」、「サマーフェスティバル」等のイベントが中止になってしまいました。

私達は安心して来館していただくため、毎日の使用前後の消毒や大型網戸の設置等による換気の徹底、人数制限によるソーシャルディスタンスをとる等の対策を実施してきました。

その成果もあり、各サークルや少年団体等の施設利用も回復し、企画を練って開催した料理教室や漬物講習会にも多くの方に参加していただきました。

今後もたくさんの方が来館してもらえるよう、安心・安全の施設環境を万全に整え、皆さんをお待ちしています。

コロナ禍にある文化集団です

劇団「川」　代表　春日　功夫

演劇は言葉のキャッチボールで成り立ちます。舞台上の人物、そして観客に向かって虚実混交の思いを、声を限りにした言葉に乗せて伝えます。練習も同様です。その世界に溶け込むまで同じシーンを何度も繰り返します。現実から遮断した空間に、大道具、照明、音響その他いろいろな手段で仮想の世界を作り、役者たちは時にはつかみ合い、時には抱きしめ、時には笑い転げます。

脚本の工夫、会場の制限、リモート練習など、手段はあるが、脆弱な環境の中あるアマチュアには勇気のいる事です。劇団「川」は約50年前に旗揚げし、演劇と言う川を小さな船で、急流や洪水、旱魃と座礁の危機を繰り返しながら航海を続けています。しかし今、一昨年の公演を最後に、どのように活動を開始するか決めかねています。

家に籠らず、対策しっかり身体のびのび

3B体操江別サークル　佐藤　ひとみ

江別にサークルを開設して以来24年になりますが、こんなに長期に休んだのは初めての事です。公共施設が使えない間は、「自宅教室」という事で、一人で体操をして体がなまらない様にしていました。6月に再開してからは未だ自粛をしている人もいましたが、ほとんどの方が待っていたようで、少し動きを抑えた所から始めました。体調自己管理の下マスクをして施設入り口での手指消毒や密にならない様間隔をあけ、換気もしながらと皆さん自発的にウィズコロナ対策を実施しています。感染に気を付けながらも家から出て活動する大切さをしみじみと感じています。

コロナの明日へ

語り・ひとり芝居ぐるーぷ うるうる亭　代表　北本　京子

今年で7年目、おなじみになりました「えべつ俄（にわか）」は、毎年10回以上の公演をおこなってきました。しかし、今年の3～6月はまったく公演のない状態で、従来の「おはなし会」や本年度上演予定でした「東京オリンピック噺の巻」も上演不能となってしまいました。9月に入ってようやく少し上演できる機会ができました。そこで歴代作品の中でも評判の良かった作品を上演しています。普通のマスクでは表情もわからないのでマウスシールドなどを使用するなど工夫をしています。このような状況でも文化の火を絶やさない努力をしていきたいです。

コロナ禍での手話サークル活動

えべつ手話の会　三谷　誓子

今年度えべつ手話の会活動は、定期総会書面議決で始まりました。

外出自粛での長い休み期間は、広報部が中心となり、会員やいつも活動を共にしている聞こえない人たちの近況情報やコメントを集め広報紙を作成、発送し、集まれない中でも繋がる工夫をしました。

サークル活動は、7月に再開。時間短縮、様々な行事の中止、活動内容の縮小、消毒液購入のほかマスク着用は当然の感染対策です。

ところがマスク着用では、口の動きが見えないので困ります。手話は手の動きだけではなく、口の動きや表情も大切なことばです。近づけないので、手話の学習に支障をきたします。更に聞こえない人は、相手がマスク着用だと声を出していることすらわからないのです。私たちは、場合に応じて透明マスクを着用することもあります。

手話は「目で見ることば」です。コロナ禍の中、発声せず（飛沫せず）に会話ができるとても便利な面もあります。この機会に、手話を覚えてくれる人が増えると良いと思います。

途切れた、夢の続きへ

江別まっことえぇ&北海道情報大学　代表　柏木真紀子

2月末からの緊急事態宣言により、メンバーの安心安全を最優先とし、6月の祭りに向けての全ての練習と集まりを中止しました。しかしカレンダーをめくる度に『よさこいから気持ちが離れ、いざ踊るという時に踊り子や応援の方が誰もいなかったらどうしよう！チームやよさこいがなくなってしまったらどうしよう！』との不安が、心の中で大きな位置を占めるようになっていきました。

そんな中で取り組んだのが「まっことチャンネル」という動画の配信と少人数でのごみ拾いなどの地域貢献活動でした。特に8月には映像審査による名古屋での祭りに参加し、奨励賞を受賞して、前に進む力を頂きました。撮影にご協力いただいたEBRI様やKalm角山様、瀬戸農園様には心よりお礼申し上げます。そして来年、2月には「冬のステージ」、5月には江別市の成人式のイベントが決定しました。よさこいが新しい形で、新たな一歩を踏み出す記念の日になることでしょう。

祭り中止、イベントゼロの中で、嬉しい気付きもありました。好きな事ややりたい事、辛い時こそ支え合える仲間とのつながりの輪を再認識できました。これからもまっことえぇは『with江別』で歩んでいきます。応援よろしくお願いいたします。

これからのイベント

◆江別生涯学習インストラクターの会

申込先　011-383-5751
留守電になっていますので折り返しお電話できる番号をお知らせください。主催者からご連絡をして受付完了です。

○親子で遊ぼう☆ヒントがいっぱい

日　時／令和3年1月30日（土）10:30～11:30
場　所／市民交流施設ぷらっと
講　師／音楽教室主宰　十倉智子さん
定　員／2・3歳児とその保護者10組程度
参加費／無料
内　容／リズム遊びや歌や絵本などからおうちで遊ぶ楽しいヒントがいっぱいの時間を親子で楽しく過ごしてみませんか。

○バレンタインパーティメニューとスイーツ作り

日　時／令和3年2月13日（土）
10:00～13:00
場　所／江別市中央公民館調理室
講　師／生涯学習インストラクター
尾澤典子さん
定　員／12名
参加費／大人1000円
こども（中学生以下500円）
内　容／バレンタインデーのパーティメニューと簡単手作りスイーツをつくります。

※いずれも新型コロナウイルス感染症の状況により内容の変更や中止になる場合がございます。

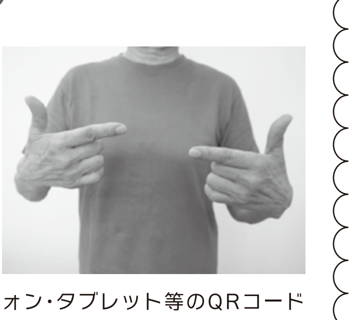
まなぼぅ Vol.10

江別市子ども会育成連絡協議会　会長　洞野　博文

本会は今年度設立70周年を迎えます。子ども達を取り巻く環境は近年著しく変化しておりますが、活動の目的・趣旨を同じくする関係団体等との連携も深めながら、次世代を担う子ども達に豊かな体験活動を提供していきます。

手話をまなぼう

「バス」



「QRコード」をスマートフォン・タブレット等のQRコードリーダーで読み取っていただくと、手話の動画がご覧になれます。今回は「乗り物」です。

《編集後記》

会議や集会、殆どのイベントも自粛の中、ら・ら・ら93号の原稿依頼を快くお受けくださった皆様本当にありがとうございます。

コロナの終息はまだ先だとしても明日への希望を失わず活動を続けて参りましょう。

広報委員　石田洋子